

## 5章 人と文化をはぐくむ誇れるまち

しあわせをより確かなものにするためには、心から愛着を感じられるまちで、生きがいを持ちながら自分らしく生きる必要があります。

そのため、市民が郷土の自然や歴史、文化の価値を再認識し、郷土を愛するとともに、目標に向かい生涯を通じて学び成長し、充実した人生をおくることのできる環境を整えることが求められます。

## 郷土の歴史と文化は

歴史的な景観、貴重な建造物、歴史資料や美術・工芸作品、および祭りや伝統芸能などは、これからの文化創造の基盤であり、地域の発展に資する市民の財産として大切に保存、継承されています。

今後は、まちの個性や魅力を創り出す地域資源として重要性が高まる一方、年月の経過とともに、保存や継承が困難になることが予想されます。

このため、失っては二度と取り戻すことのできない文化資産を保存する施設などの整備を進めるとともに、市民との協働により、適正に保存、継承するシステムを構築することが求められます。また、歴史や文化をいかしたまちづくりを進めることにより、まちの魅力を高め、市民の郷土愛と誇りをはぐくみます。



国指定重要文化財 旧黒澤家住宅



国指定重要無形民俗文化財  
土崎神明社祭の曳山行事

## 文化・芸術活動は

市民の創造的な文化活動が積極的に行われており、優れた芸術作品が数多く発表されています。また、文化事業が自主的に企画・開催されるなど、市民文化の振興は着実に進んでいます。

今後は、市民文化の一層の振興と優れた文化活動により、まちの活力が高まることが期待されています。また、自主的な文化事業が活発になっていくことにより、活動の場を確保する必要性が高まることが予想されます。



このため、市民の文化活動の充実を基本に、市民文化の活力をにぎわいの創出やまちの魅力向上につなげるための取り組みを進めます。また、活発化する文化事業が円滑に開催できる環境づくりにつとめます。

## 生涯スポーツは

気軽にスポーツに親しみながら、健康な生活をおくることができる、心身ともに豊かなライフスタイルを実現したいという意識が高まってきています。

今後は、こうしたライフスタイルの実現に向けて、スポーツ振興や環境整備に対する市民の要望が高度化・多様化することが予想されます。

このため、既存施設の有効活用や今後のニーズに応じた適正な施設整備を進めるとともに、地域や各種団体などの連携により、誰もがスポーツに親しみ、健康と生きがいづくりに取り組める環境整備につとめます。また、平成19年開催の秋田わか杉国体を契機に、市民のスポーツ意識をさらに高め、新しい時代のスポーツ振興の基盤づくりを進めます。



## 国際交流は

これまで、5つの友好姉妹都市等<sup>(注1)</sup>を中心に、行政や教育文化、医療などの様々な各分野における交流を行っています。

近年の交通手段や情報網の発達、外国人住民の増加などで、海外渡航や異文化体験がより身近なものとなり、国際交流は、行政間交流から市民交流、および市民と行政の連携による交流に変わりつつあります。

今後も、国際化は一層進み、従来の友好親善を目的とした画一的な交流から、特色をいかし、目的に応じた多様な交流となることが予想されます。地域においても、異なる文化や習慣を持つ様々な国の人々と、日常的に交流する機会が拡大することが想定されます。

このため、友好親善と相互理解に根ざした信頼の絆が、世界の平和と繁栄の礎となるよう、市民の主体的な交流活動や、交流成果の市民への還元、地域における国際化を進め、国際的な視野を持った人材育成と世界に広がるパートナーシップを構築します。



注1) 友好姉妹都市等

中国・蘭州市、ドイツ・パッサウ市、ロシア・ウラジオストク市、アメリカ・セントクラウド市、アメリカ・キナイ半島郡のことをいう。



## 社会教育は

自らの個性をいかし能力を高め、生きがいのある生活をおくるため、生涯を通じて学びたいという市民の学習ニーズが、高度化・多様化しています。また、学習成果をボランティア活動などのかたちで社会にいかしたいという意欲も高まっています。

今後は、市民の学習意欲が、ますます高まるとともに、「学び」による学習成果を地域社会全体の活性化につなげていくことが重要になると予想されます。また、子どもの成長を支援する取り組みの重要性が高まることが想定されます。

このため、子どもから高齢者までの各ライフステージに応じた様々な学習ニーズに応える社会教育活動を、市民と行政の協働により進めるとともに、学習機会に関する情報提供の充実や学習活動を支える場である施設などの整備につとめます。また、学習機会の拡充にあたっては、現代的課題や地域課題の解決につながる「学び」の機会を充実し、地域づくりに貢献できる人材の育成につとめるとともに、学習成果を社会に積極的にいかすことができる環境を整えます。

## 学校教育は

少子化の進行や価値観の多様化、高度情報化の進展など、子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。

今後も、社会環境の変化などに対応できる「生きる力」をはぐくむことが重要であり、コミュニケーション能力など人間関係を構築する力の育成をはじめとして、一人ひとりの発達段階に応じた教育の重要性がますます高まることが想定されます。

このため、秋田の未来を担う人材として、幼児期から高等学校段階までを通じて、充実した教育環境と指導体制のもと、豊かな人間性、確かな学力、健やかな心身といった、徳・知・体のバランスがとれた自立できる子どもの育成に取り組みます。また、家庭や地域と連携しながら、人を思いやる心など「共生」の心をはぐくむとともに、不登校対応や特別支援教育などの様々な教育課題に、小中一貫した考えに立ってきめ細かく対応します。

さらに、学校施設などの整備を計画的に進めるとともに、学校の規模や配置の適正化についても検討を進めながら、教育環境の維持・向上に取り組みます。



## 高等教育は

時代に適応した教育の高度化に加え、地域の学問や技術、文化の拠点として、地域社会や産業界との一層の結びつきが必要となっている一方で、学生数の減少などから、高等教育機関を取り巻く環境が厳しくなっています。

今後は、教育の高度化・専門化とともに、行政、地域団体、産業界、他大学などと連携した活動が求められ、経営の効率化が、さらに重要になると予想されます。

このため、大学課程の拡充などにより教育の高度化を進め、創造性豊かな人材の育

成をはかるとともに、高等教育機関が蓄積する高度な知的資源を産業の発展や文化の振興などに直接結びつけることができるシステムの構築が求められます。また、一層、厳しくなる経営環境のなかで、大学コンソーシアムあきた<sup>(注2)</sup>を通じた単位互換協定など、大学間連携を密にし、教育・研究水準を高めつつ安定した経営を進める必要があります。

秋田公立美術工芸短期大学においては、個性、特色を一層明確化し、組織、機能強化を進めるとともに、地域貢献に積極的に取り組み、高等教育機関としての魅力を高めるようつとめます。



### 総括すると

市民一人ひとりが、郷土に強い愛着と誇りを持ち、生きがいを持って生涯をおくるためには、郷土の歴史と文化の魅力を享受し理解を深めるとともに、誰もが自分の可能性を最大限に発揮できる恵まれた環境のなかで成長していく必要があります。

### このようなことから

歴史や文化をいかした魅力あるまちづくりを進めるとともに、生涯にわたり学習・文化・スポーツ活動に取り組める環境のなかで、誰もが目標に向かって成長し、希望に満ちた生活をおくることのできる、人と文化をはぐくむ誇れるまちをめざします。

注2) 大学コンソーシアムあきた

秋田県内の高等教育機関の連携・交流により教育研究機能を強化するとともに、その成果を地域社会へ還元し、地域の発展に貢献するため、平成

17年3月、秋田県内の大学などが設立した組織。単位互換協定の運営、高大連携授業、連携公開講座、社会人講座などを推進している。